

活動の名称	災害時避難所運営訓練
取組内容	1995 年 1 月 17 日阪神淡路大震災死者数 6,434 名、災害関連死 3,692 名。2011 年 3 月 11 日東北大震災直接死者数 15,900 名行方不明 2,520 名、災害関連死 1,368 名。能登震災死者数 645 名（うち災害関連死 417 名）。能登地震では死者・行方不明のうち関連死が 60%と成っています。直接死を防ぐには家屋などの耐震強化や河川の堰堤工事、防潮堤など巨額の費用が掛かります。災害関連死は主に避難所生活が長くなり衛生面、食事、プライバシー確保など多様な要素が絡み合って体調不良や発病、持病の悪化など長期に影響を及ぼします、特に大篠津町は高齢化率が高く災害関連死の予防が重要に成ります。近年夏の猛暑、局地的な豪雨、強力な台風や竜巻など災害の規模や発生数が増加しています。 避難所開設のニュースも多く目にするようになりましたが体育館などに雑魚寝の状態が多いと感じます。災害時に町民が安心して避難できる避難所の開設は災害関連死を防ぐのに重要と成りますが殆どの避難所は自治会が中心と成って運営を行っているのが実情です。予想できない開設に対して運営のノウハウを誰もが持ち合わせてはいないと思います。開設した避難所の仕切り直しは出来ないのです。今年度は大篠津自治連合会で「避難所運営ゲーム HUG」の体験し小学校講堂を対象に避難所の受付、区画割などの受け入れ態勢を実際の会場を使用して行いました。今後は群馬県前橋市が行っている各避難所別の配置図を手本に「避難所の開設が誰でも素早く」と「快適な避難所」を目指して活動を行いたいと思います。  
課題	夏場の避難所に欠かせない冷房器具や備蓄品などの予算の確保。 避難所と成っている小学校が 6 年後に閉校と成るのでその後の避難所の確保

活動の紹介

団体名(和田地区自治連合会)

活動の名称	1 和田地域ケア会議 2 マツ守り隊
取 組 内 容	1 ケア会議 和田町のケア会議は、平成27年(2015)厚労省の提唱する『2025問題』に対応するため自治会、民生委員、地区社会福祉協議会が協力して高齢者問題に取り組むために立ち上げました。 特に、令和元年(2019)から在宅福祉委員(20名)や各地区の老人会も参加、見守りマップを中心に皆で支え愛う地域づくりを目指しています 活動時期:年6回の「ケア会議」及び年4回の「ケア会議新聞」発行 2 マツ守り隊 マツ守り隊は平成21年(2009)和田の浜の美しい白砂清松を未来に繋げようと松林の清掃と植林を目的に結成しました。 活動内容:4月から11月の間、月2回の保全活動 及び2月から3月の間の松くい虫防除注射と植林
課 題	ケア会議及びマツ守り隊ともに構成員の高齢化が進んでいる。 また、就労年齢が延びているため、次世代を担う人材の地域活動参加が少なくなっている。

第59回

ケア会議10周年盛大に！

伊木市長
ビデオで祝福メッセージ

★9月16日公民館において59回ケア会議が開催された。平成27年、第1回ケア会議が始まってちょうど10年目の記念すべき会議。この記念すべき会議に関係者一同、伊木市長に声掛けしたところ市議会開催中の多忙な時期にも関わらずビデオにより祝福のメッセージをお寄せ頂きました。

♥市長のメッセージの概要♥：高齢者地域でこのようなケア会議を10年も前から取り組んでいる和田町の皆様に敬意を表します。米子市においては高齢者対策の先駆者としてこの会議に期待しています。益々のご発展を祈念します。



市長のビデオメッセージに聞き入る参加者

★会議が始まり情報交換の後は、西井民協会長による『ケア会議10年の歩み』を講演。参加したメンバーは発足当時の苦労を思い出したり頷いていました。また、新しいメンバーはケア会議の重要性を認識している様子が伺えました。



見守りマップを前に高齢者情報を語り合う下和田グループ



市長のビデオレターに聞き入る荒神グループ(左)と部外からの参加グループ(中央)

朝市 ♥ 盛況

恒例の「和田の朝市」が猛暑の8月に4回開催されました。今年は地元からスイカやメロンの出品も多く、大盛況でした。

またお盆前(11日、12日)には色鮮やかな盆花やシブキが大量に朝市を盛り上げ、猛暑の中多くの高齢者が訪れ、地域の交流の場として賑わいました。

(朝市はケア会議が後援しています)



地元からも多数出品がありスイカやメロン夏野菜が即刻完売！



猛暑の続く中
元気に朝市が
始まった！



盆前2日間は花屋さんが参加、多くの人が買い求め連日大盛況！

和田納涼盆踊り大会

8月15日猛暑の中「和田納涼盆踊り大会」が開催されました。
 今年は地元中学生が売店などのサポーターとして参加、さまざまな企画・運営に携わりました。
 また、昨年から登場した怪獣(テラノザウルス)が子どもたちに大人気。今年は、女性や子どもたちの参加が目立ち公民館広場は大賑わいでした。

大盛況だったネ!



「綿づくりプロジェクト」

中海PAC (パブリックアクセスチャンネル) 大賞受賞

地域づくりに取り組む「和田で綿づくりプロジェクト」が、中海テレビの「パブリックアクセスチャンネル大賞」を受賞しました。これは市民制作の投稿ビデオ75本の中から優秀作を表彰するもので、綿づくりに取り組む記録ビデオが地域活動として高く評価され見事大賞に選ばれたものです。
 当日は14名の「綿プロジェクト」メンバーが授賞式に参加して喜びを分かち合いました。



審査委員長から大賞トロフィーを受ける
 田辺代表とプロジェクトメンバー

ちょっし
聞いてごしない

シゲちゃん
コーナー



■早口言葉は、
舌や喉の筋肉を動か
すので誤嚥防止に繋
がります。

※誤嚥：飲み込んだ食べ物や
唾液が誤って気管に入ること

■発音/滑舌の改善
人と話すことが楽しく
なり、コミュニケーシ
ョンが増える。

■脳の活性化
言葉を早く正確に言
うには脳の判断力が
必要で認知機能の維
持にも繋がります。



フレイル予防に
早口言葉はいかが



○ 隣の客はよく柿食う客だ

○ 赤巻紙青巻紙黄巻紙

○ 東京都特許許可局長



皆さまのイイ話を募集しています! ▶編集部(公民館)まで

編集後記

和田町ケア会議は9月で10年目を迎えました。平成27年、厚労省の「2025問題」への対応を目指し、地域が一丸となって高齢者問題に取り組むため発足。当初は、「病院が無い、スーパーが無い、移動手段が無い」など課題のくり返して試行錯誤の連続でした。そんな中、在宅福祉員や老人会などの団体が加わり、以降独居や認知症の方への『見守り体制づくりへ』と発展。今は、米子市や外部団体からも参加、より充実した会議となってまいりました。結びになりますが「ケア会議10周年」にあたりビデオメッセージを頂きました伊木市長様へ厚く感謝申し上げます。

(田)

活動の名称	富益地区 納涼祭
取 組 内 容	今夏の納涼祭は、8月2日（土）当公民館多目的広場にて盛大に開催することができました。 連日の猛暑の中、熱中症警戒アラートが連日のように発表があり大変心配していましたが、当日はその発表もなく予定とおり実行委員会スタッフ一同で、会場設営等を実施し本番に備えました。 イベントの皮切りに、酸友連「がいな太鼓」和太鼓の演奏で、見事なバチさばきに感動的で力強く、会場全体が酔いしれて、一気に盛り上がってきました。 -その後、演目も進み同行会等で、日頃の練習の成果を発揮して堂々たる演技に拍手喝采でした。 会場には納涼祭に欠かすことの出来ない夏の風情を感じてもらい、地域の皆様が楽しめる交流の場として、出店3店・キッチンカー2台・飲料水コーナー・子ども遊びコーナー等設け、子どもから大人まで楽しめる多彩なイベントを展開したところ多くの来場者で各コーナーに行列が出来るほど賑わっていました。 夕日が沈み、祭りの最後のアトラクションとして抽選会には、大勢の来場者があり、「当たるかも」のドキドキ感で抽選会場は大いに盛り上がり、当選者は豪華景品を手にも満面の笑顔。楽しく終えることが出来ました。 最後になりますが、納涼祭はいろいろな人と交流が出来る機会になります。地域住民の皆様に交流を深めてもらい「自分が住んでいる地域にどのような人がいるのか知らない」とか「めったに顔をあわせて話す機会がない」という人もあられるのではないのでしょうか。 最近問題になる防災の観点からも重要です。 来年も地域の皆様と共に、楽しい笑顔溢れる祭りにしたいと思います。    
課 題	・

活動の名称	おとうまつり 御禱祭 （通称 マイタマイタ）
取組内容	夜見開村の祖先の労を祀り、偉業を偲んで感謝するとともに、村の繁栄を祈るため、およそ 260 年前、宝暦・昭和の頃に始まったと伝えられている。 開村当時の家系の子孫が行っていた神事で、一時途絶えていたが有志により復活・簡素化され毎年 10 月下旬公民館行事として受け継がれ現在に至っている。 宮司の祝詞から始まり一同で御神酒をいただいた後、藁を縄って 7 メートルの程の大蛇（おろち）を作る。公民館祭では前庭の樹か石塔に巻き付けて飾り、終了すると夜見神社に奉納している
課題	・技術の伝承に不安がある ・藁の入手が困難になると予想される



活動の名称	成実さくら祭り
取 組 内 容	毎年桜の季節に開催される成実さくら祭りは、今年で36回を数えました。 成実公民館の裏手にある米子市南公園（墓地）には、入り口から道路沿いに桜の木が植えられており、毎年桜の木にボンボリを飾っています。期間中は夕方から夜10時までボンボリに灯をつけて、地域の方に美しい夜桜を観覧いただいています。 また、3年毎にイベントを行い、多くの地域住民の来場をいただき、好評を博しています。 イベントは南公園管理棟の駐車場を会場に、舞台を組んで公民館の同好会や有志による舞や歌で祭を盛り上げていただきます。また、公民館の部会、同好会、消防団等の協力を得て、さくらもち・コーヒー・飲料等を販売していただき、地区をあげて盛大に開催しています。 イベントのオープニングやフィナーレを米子がいな太鼓や中学校の吹奏楽部に依頼し、大変賑やかです。     
課 題	特にないが、桜の木が古くなって剪定され、ボンボリを取り付ける枝が毎年変わり、取り付けに苦慮しています。

活動の名称	地域と連携したまちづくり
取 組 内 容	尚徳地区で、自治連合会、公民館が中心となり取り組んでいる活動 尚徳は、それぞれの集落に様々な伝統文化があり継承してきた歴史があります。ここでは、自治連合会が主体となり、尚徳地区民が一体となり継承している活動を紹介します。 【兼久土手の桜並木】尚徳さくらの里づくり推進協議会 尚徳地区は、中央を流れる法勝寺川・小松谷川の二大河川の恩恵をうけ、肥沃な大地に恵まれ米作を主産業として栄えてきました。同時に水害による被害に悩まされてきました。明治・大正には三度の洪水に見舞われ兼久堤防が決壊、米子市民にまで被害が及び大規模な築堤工事が行われました。堤防の完成を記念し内堤に桜が植樹され、昭和の中期にかけ桜の名所として市民の皆さんに親しまれてきました。市内小学校の春の遠足の地でもあり、桜シーズンには、子供たちが桜をバックに河原で走り回っていました。残念ながら昭和の後期に老衰枯死により伐採されることとなりました。 尚徳地区民の心のふるさとでありシンボリックな存在となっていた「兼久土手の桜」を継承し後世に引き継ぎたいと、住民が立ち上がり自治連合会を中心として「尚徳さくらの里づくり推進協議会」を設立。国土交通省日野川河川事務所と協議を重ね、安養寺橋から実久までの外堤に新たな桜を植樹し、地区民が一丸となり見守り育てて来ました。現在では、往事と変わらない見事な桜が咲き誇るまでに成長しています。  【尚徳和みのロード】尚徳和みのロード運営委員会 かつて兼久土手の桜並木沿いを「法勝寺電車」が走っていた道は、江戸時代には新出雲街道として多くの人が行きかう主要道でした。今では、尚徳地区の中心地として小学校・老健施設・保育園・医院・JA・公民館・給食センターが点在し、多くの人が行きかう道路となっています。尚徳小・中学校の子供たちが通学で登下校し、多くの地域住民が行きかうこの道を、花で飾り笑顔あふれるロードにするため自治会を中心として「尚徳和みのロード運営委員会」を設置。公民館から

老健施設アイアイまでの約 500m の道路を「尚徳和みのロード」と命名し、春と秋の年 2 回、保育恵児・小学生・地域の皆様が協力し 190 のプランターに 570 の花を植えています。今では、一年中、綺麗に咲き誇る花に見守られながら子供たちが通学できるロードとなっています。



【千灯籠・万灯籠】尚徳地区千灯籠・万灯籠保存会

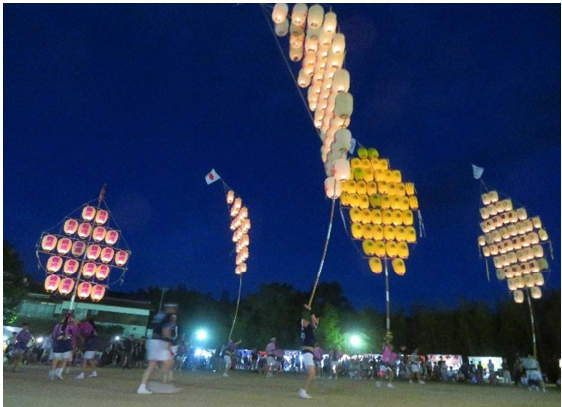
尚徳の各集落では、江戸時代末期から一世紀以上にわたり、火の神を祭る千灯籠・万灯籠が継承されてきました。今では尚徳地区の夏の風物詩となっています。令和 6 年、米子市の指定無形民俗文化財として指定されました。千灯籠・万灯籠を継承する自治会が、「尚徳地区千灯籠・万灯籠保存会」を立ち上げ、尚徳地区の伝統文化「千灯籠・万灯籠」の保存・継承活動を行っています。今年度は、各地区に説明看板を設置しました。



【水辺の楽校】米子市法勝寺川水辺の楽校運営協議会

尚徳地区は、大雨による内水被害に悩まされてきましたが、国土交通省事業として四ヶ村堰の改修工事が行われ、水害の被害が軽減され川の流れが穏やかとなりました。尚徳地区の母なる二大河川に子供たちが安全に入り自然体験ができる環境を整備していただくよう、自治連合会・公民館が中心となり協議会を立ち上げ国土交通省の「水辺の楽校」事業に応募し、平成 31 年に採択され、令和 6 年(2024) 6 月 29 日に完成式典が行われました。尚徳地区に新設された素晴らしい施設をどのように有効活用し、新たな歴史・文化を作り上げるかが大きな課題となっています。運営協議会では、尚徳の未来を担う子供たちとともに新たなふるさとづくりをしたいと考えています。令和 7 年度は、サップ・ゴムボートを米子市の補助金・寄贈により整備するとともに、国土交通省の補助事業を活用し水鉄砲などを購入、尚徳中学校の生徒が中心となり、「夏休みに水辺の楽校で遊ぼう」

	と言う企画を立案から実行まで実施しました。尚徳中学校の生徒を中心として「水辺の楽校」に多くの市民が訪れ憩いの場、子供たちが遊べる場となるような施設運営を行い、新たな尚徳のふるさと史を構築するように務めています。水辺の楽校が子供たちの心の故郷になるよう願っています。 
課 題	【兼久土手の桜並木】 成木となり枯れ枝等が目立ち始め維持管理に手間暇がかかるようになっている。 【尚徳和みのロード】 花・プランター代などの必要経費が物価高騰により年々上昇、協賛企業の少ない尚徳地区では運営経費の捻出が大きな課題となっている。また、年々気温が上昇し猛暑日・雨不足など自然の猛威により夏場の水やりが大変な作業となっている。 【千灯籠・万灯籠】 半世紀前は子供たちが主体となり活動してきたが、少子高齢化により現在では自治会が主体となり活動している。 【水辺の楽校】 継続的に運営するための財政が大きな課題

活動の名称	ながえ祭について
取 組 内 容	昭和 54 年（1979 年）8 月第 1 回ながえ団地祭りを開催し、令和 7 年 7 月 26 日（土）第 47 回ながえ祭を開催しました。 この祭りは永江地区自治連合会 6 単位自治会が協力してながえ祭実行委員会事務局を組織し、寄付金を集め、くじ引き販売、ビアガーデン営業を行っています。 ステージでは五千石保育園、東みずほ幼稚園、尚徳小学校、尚徳中学校、米子南高校の皆様に合奏、合唱、ブラスバンド、ダンスなどに出演していただいています。 プログラムとしては、米子外太鼓、よなご万灯など、盛大に開催し、米子伸農商業協同組合露店商、キッチンカーも出店していて、千人以上の方に集まって頂いています。  
課 題	ながえ祭実行委員会事務局員は約 30 名、その内の約半分は自治会役員で残り半数は協力者ということでお手伝いいただいています。 また、各自治会にそれぞれ担当業務を振り分けていて、いずれの自治会も高齢化のため担当者の選任に大変苦労されています。 （ビアガーデン、電気設営、舞台設営、会場設営整備、くじ引き等） 特に、事務局長のなり手がなくその選出だけで会議を 2 回開催した状況です。なり手がいないまま第 47 回の事務局長を無理やり連続 10 回目の方をお願いしました。第 48 回ができるのか？